

# 不整脈の予防や 最新治療法紹介



開会あいさつ 佐田 政隆氏

心臓の拍動が乱れる不整脈が原因で、失神や大きな脳梗塞、突然死を起こすことがある。本日は、そのような病気の予防法と、最新治療について学んでもらい、皆さまの健やかな毎日にお役立ていただきたい。昨年末、脳卒中・循環器病対策基本法が可決された。現在、日本全国どこにおいても最新治療が受けられるよう、診療体制の整備が進められている。基幹病院である徳島大学病院でも、最新の治療法を医局員と共に研さんしながら、治療の実現を続け、地域の健康を支えていきたいと考えている。

# 体の負担少なくて症状改善

添木 武氏

## 頻脈性不整脈へのカテーテル アブレーション治療



心臓は、成人の場合は1分間に約70回、1日に約10万回、一定のリズムで拍動する。このリズムが崩れた状態が不整脈である。心臓には微量の電気が流れており、この電気系統のトラブルが不整脈の原因となる。不整脈は、脈が早くなる「頻脈性不整脈」と、脈が遅くなる「徐脈性不整脈」の大きく二つに分かれる。

心臓は全身に血液を送り出すメインポンプの役割を持つ「心室」と、それを助けるサブポンプとして機能する「心房(上室)」に分かれている。心房の中で不規則に電気興奮が発生し、心房がけいれんするのが「心房細動」という病気だ。すぐ命を落とすことはないが、脳梗塞や心不全を発症する危険性が高くなる

そのため、長期的には危険が部分(肺静脈)を隔離する必要があることを知っておいてほしい。一方、心室内で異常な自動能が生じ心室頻拍が起ることに伴い、心房細動を失って倒れる、数え切れないほど脈が早くなる等の症候が起る。心室性不整脈の場合は重篤と判断されるので、即時に有効な治療が必要となる。

頻脈性不整脈の薬物療法では、脈拍を正常に戻す薬や、血をサラサラにする薬を服用してもらうが、薬を止めればまた元に戻ってしまうので、根治治療にはならない。非薬物療法として、カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)を行うと、多くの場合、動悸、息切れ等の症状が消失し、薬物療法が不要になる可能性がある。カテーテルアブレーションには、心筋を高周波電流で焼灼する方法と、冷凍して焼灼する方法がある。近年、肺静脈からの異常な電流が心房細動の大きな原因の一つだと分かった。そこでは、全員元気に歩いて退院で、心房細動のスイッチの

ね4〜7日間。手術の翌日からベッドを離れて歩くことができる。入院費用は、高額医療制度が適用される。外科治療と比べ体の負担が少ない利点があるが、ごくまれに合併症が起ることがある。しかし、すぐに対処すれば重篤な状態になることはほとんどない。徳島大学病院でもアブレーション目的で入院された方の



## 開胸難しい人向けに開発

近年、弁膜症の患者数が増え、弁狭窄症（びんさうせう）というこの病気は近年増加傾向で、進行すると予後が悪い。症状が出現し、治療を行弁を埋め込む最新の治療法で、この流れが悪くなる病気で、重症わなかつた場合の5年生存率は約20%と悪性の進行がんと同様の予後とされている。初期の段階では自覚症状はないが、病状が進むと動悸、息切れ、むくみ、胸痛、失神、呼吸困難などの症状が現れる。弁膜症は聴診すると心雑音が聞こえることが多く、比較的簡単に見つけやすい。弁膜症と診断されたら、心エコー検査等で更に詳しい検査を行い、今後の治療法を決定する。

心臓は全身に血液を送るポンプの役割をしている。心臓には四つの部屋があり、各部屋には「弁」という仕切りがある。そのうち、大動脈弁は送り出した血液が心臓に逆流しないよう、3枚の弁が開閉する仕組みになっているが、加齢や動脈硬化などで障害を起こしやすい。大動脈弁が石灰化して硬くなり開きにくくなることで血液の流れが妨げられてしまう疾患を「大動脈

初期の大動脈弁狭窄症は経過観察でよいが、病状が進むと「弁置換術」が必要となる。この治療で懸念されている弁輪の手術は、傷んだ弁を生体弁や機械弁に置き換え、弁の機能を回復させるものである。従来の標準的的外科治療は、胸を開いて一時的に心臓を止める必要があるため、高齢者や全身状態の悪い患者さんには適応できないことが多いと多くみられた。そこで、カテーテルで手術ができる「TAVI（タビ）」という治療法が開発された。

徳島大学病院では、現在約40件のTAVI手術実績がある。この治療で懸念されている弁輪破裂、血管閉塞、脳梗塞、弁機能不全などの重篤な合併症は発症しておらず良好な治療成績が得られている。手術時間は約1時間半で、手術翌日からリハビリを行い、1週間程度で退院できる。その後は半年に1回程度の外来通院をしていただく。現在、心臓弁膜症の症状がある方はかかりつけ医に相談し、弁膜症と診断されたら、当院の外来治療を受けていただきたい。



TAVIは太ももの付け根か